

今日のトピック 日本のGDP成長率(2015年7-9月期1次速報値)

## 2四半期連続マイナス成長だが民間在庫減が主因

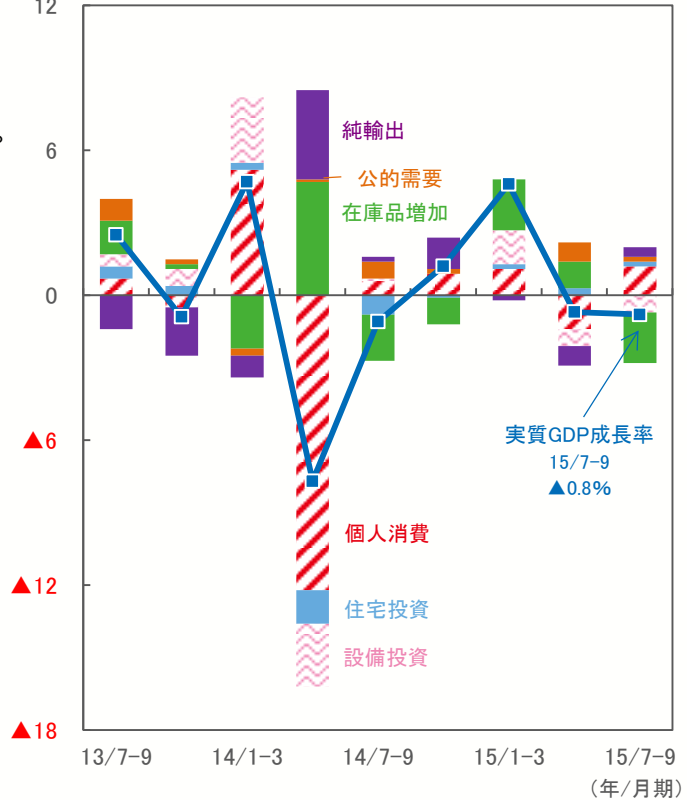
### ポイント1 2四半期連続マイナス成長 消費は持ち直しも在庫減が響く

- 内閣府は16日、7-9月期のGDP統計1次速報値を発表しました。実質GDP成長率は、前期比年率▲0.8%と2四半期連続でマイナス成長となりました。
- 需要項目別の寄与度では個人消費が+1.2%と前期のマイナス寄与から持ち直しました。ただ民間在庫品増加の寄与度が▲2.1%と大きく、これがGDP全体の伸びを押し下げる結果となりました。

### ポイント2 住宅や外需はプラス寄与 設備投資は依然として低調

- 住宅投資の寄与度は+0.2%と、低金利環境などが追い風となり、3四半期連続でプラス寄与となりました。これに対し設備投資の寄与度は▲0.7%と、企業の設備投資への意欲は依然として高まりませんでした。
- この結果、民間需要の寄与度は▲1.4%となりました。一方、公的需要の寄与度は政府最終消費支出の増加により+0.2%となり、内需は▲1.2%の寄与度になりました。なお外需は輸出の伸びが輸入の伸びを上回り、寄与度は+0.4%という結果でした。

(前期比年率、%) 【日本の実質GDP成長率】



(注) データは2013年7-9月期～2015年7-9月期。実質GDP成長率は前期比年率、その他の項目は同寄与度。公的需要は、政府最終消費支出、公的固定資本形成、公的在庫品増加の合計。(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 株式市場への影響は限定的、10-12月期はプラス成長も

- 株式市場については、3月期企業の7-9月期決算がほぼ終了していることや、政府の景気対策および日銀の追加緩和への期待も根強いことから、今回の結果の影響は限定的とみられます。
- 7-9月期は個人消費の持ち直しと住宅投資の伸びの継続が確認されました。設備投資は低調ですが、在庫の減少で生産増加の可能性も見込まれ、10-12月期はプラス成長が期待されます。

ここもチェック! 2015年11月05日 日本企業の業績動向  
2015年10月30日 日銀は現行政策を維持、景気・物価見通しを大きく下方修正

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。